

バイブルスタディ Pastor JD Farag

2018.09.09

エペソ人への手紙 6:13-14 「サタンを見極め対抗する—サタンの攻撃の真実—②」

今日は、エペソ人への手紙 6 章の 13 節と 14 節の最初の部分を学びますが、その訳はすぐに分かると思います。使徒パウロが聖霊によって、エペソの教会へ手紙を書きました。

エペソ 6 章 13 節-14 節 a

13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、一切を成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい。

14a そして、堅く立ちなさい。

祈りましょう。

主よ、御言葉をありがとうございます。

今日、私たちが学ぶこの箇所に感謝します。

主よ、この時間、聖霊様の働きによって、私たちが集中し、集中が保てますように。

そうして、あなたが今日用意して下さった全てを見逃すことがないように。

主よ、この聖句を学ぶことで敵の怒りを買うことを、私たちはよく分かっています。

敵は私たちが混乱させるために、気を散らさせて、日々の多忙な事やしなければならぬ事を考えさせようとするでしょう。

ですから主よ、私たちが集中し、専念できるように導いて下さい。

今日、学ぶことを何一つ見逃したくないのです。

主よ、私たちのいのちに語りかけてください。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。

多分皆さんは、私がこの書簡の最後の章の学びを、慌てずじっくり進めているのに気づいているでしょう。

私は本当に、今日の 13 節と 14 節の最初の箇所をしっかりと伝えたかったのです。

主が、私たちに気づかせたいことがここにあるから。

お話したいのは、私たちクリスチャンが“どうやってサタンを見極め、抵抗することができるか”です。

前回、来られなかった方や、動画を見ていない方のために言いますと、前回私たちは、勝利の中を歩むための最初のステップを見ました。

“勝利の中を歩む”という言い方をしたのはにはワケがあります。

勝利の中を歩むための第一のステップは、敵がどういうものであるか、どういうものではないかを見極め、気づくこと。

なぜなら、サタンは仮装し、光の御使い（天使）に見せかけるから。

サタンは大変巧妙で、あなたの人間関係や結婚生活、子供たちや家族、家庭の争いなどの背後に自分がいることを認識出来ないようにします。

職場での状況やストレス、緊張は同僚のせいではないのです。その同僚が敵ではない。

妻や夫、子供たち、また、その従業員が敵なのではありません。

あなたが考えていることの正反対です。

サタンは見つからないようにやって来る。ものすごく巧妙に。

創世記 3 章には、サタンが最も巧妙で、他のどの被造物よりも狡猾（賢い）だと書かれています。

そのようにこっそり見つからないように来て、光の御使いを装い、間違っただけの敵に対して間違っただけの戦いをさせるのです。

皆さんも同感でしょう。

間違った敵と間違った戦いをするなら、勝利するチャンスはありません。

戦う方向が、間違った方に向いているのですから。

戦いや奮闘がある程度は成功したかに思えても、その内、無駄だったと分かるでしょう。

それがまさに、敵の思うつぼなのです。

話を進める前に、勝利の中を歩むということの重要性を指摘することは私の責務だと思います。

なぜなら、私たちはもう既に、サタンに勝利しているからです。

この学びのタイトルは、“サタンを見極め、打ち負かす”ではありません。

イエスが彼を打ち破ったので、サタンは既に敗北しました。

イエスが私たちのために、私たちの代わりに十字架にかかり、葬られてよみがえった時、既にサタンを打ち破り勝利したのです。

しかし、問題があります。

サタンは自分が敗北した敵であることを、あなたが気づかないように、見極めないように、あらゆることをするので

す。サタンがクリスチャンの人生に“そうするかも”ではありません。そうします。

あなたが気づかないように、見極めないようにするためなら、どんなことでも何でもしようとしてしますよ。

私がこれを指摘する理由は、サタンの戦略を見極めることが、対抗して立ち向かい、抵抗するために行うべきことだからです。

私達は、サタンに打ち勝つ必要はありません。彼は既に敗北しています。

敵を一蹴して勝利の中を歩むためにすべきことは、A: 敵はサタン B: これらはサタンの戦略 ということを見極めることなのです。

そうする時、私たちは立つ。

サタンに対抗して立ち向かうというのは抵抗すること。

ええ。言うのは簡単ですよ…

ここがポイントです。

あなたはキリストを通して、キリストによって、ただの勝利者ではなく、圧倒的な勝利者です。

その意味が分かりますか？

それは、「クリスチャンとしての私たちは戦いが始まる前に、既に勝利するのが分かっている。私たちはもう勝利していて、圧倒的な勝利者なんだ。」という意味です。

あなたは、既にあなたのものである勝利の中にただ立って、歩むだけなのです。

立つのです。立ちなさい。そうです。立ちなさい。

これが、パウロがエペソ人に言っていることです。

また、ローマ人にも言いました。

ローマ人への手紙 8 章、少し時間を取って、34 節から 37 節を見たいと思います。

ここは主が今日用意して下さった教えで、私達が理解すべきメインの部分ですから。

ローマ 8:34-37

あとでここに戻るので、覚えておいてください。

確実に、ここは修辞法です。

34 だれが、私たちが罪ありとするのですか。誰もできません。

死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。

なんと心強いことでしょう。

35 だれが、私たちがキリストの愛から引き離すのですか。

苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。これも修辞法。

36 こう書かれています。「あなたのために、私たちは休みなく殺され、屠られる羊と見なされています。」

そして彼はこう言っています。聞いてください。

37 しかし、これらすべてにおいても、私たちが愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。

圧倒的な勝利者なのです。

ヤコブはそれをそのまま話し、更にサタンへの抵抗に関して解き明かしました。

神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。（ヤコブ 4:7）

あなたが立ち向かうなら、サタンは逃げ去ります。

ところでこの点を、次のレンズを通して見て下さい。

パウロは今日の聖句の中で“立つ”を3回言っていますが、“立つ”には“倒れないように、堅く立つ”という意味が含まれています。

戦いが激しさを増す戦場を想像してみましょう。

戦いが激しくなると、立ち続ける人がいる反面、残念ながら倒れる人もいます。

これが、パウロが描写していることです。

立つ。倒れるのではなく、また絶対に、走り去ることもありません。

背中を守る鎧というものはないでしょう。

だから、あなたは走り去らないで立つ。サタンが走り去っていく。

多分私はこういう考え方をするタチで、私が立って彼が走り去るか、私が走り去って彼が立つか。どちらかです。

シンプルでしょ？

つまり言うならば、全ての層を剥がすとヤコブ 4 章 7 節だということ。

神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。（ヤコブ 4:7）

「**神に従い**」と言っている点に注目して下さい。

自分自身の強さで立つのではなく、神の大能の力によって神の強さの中で立つ。

これが、パウロが先程のローマ 8 章の中で強調していることです。

なぜ、サタンがあなたから逃げ去るのか知っていますか？ 敗北した敵だから。

あなたはキリストにあって、既にサタンに勝利している！

疑問なのは“どのように”、“どうやって”サタンに対抗するのか？

イエスをご自身を献げたことが、サタンに立ち向かい抵抗すること、そしてサタンが逃げ去ることの完全な模範です。感謝！

ルカの福音書に、興味深いことが詳しく書かれています。

ルカは、イエスがサタンに対抗して立ち、抵抗したこと、そしてサタンが逃げたことを書いていますが、そこで

「サタンはもっと適切な時にまた戻って来る」と言っているのです。

今、私同様、皆さんの多くは「それを聞きたくなかった！」でしょう。

「待って！何ですって？」

あなたは今、「それは堅く立っている勝利者のクリスチャンのこと。私はもうサタンと悪霊に関わらない！」と思っ
ていますか？ いいえ！ 違います。

サタンは退いて再編成し、再び戦略を練って、そして戻って来る。

サタンは大変忍耐強い。それが問題。

獅子のようにあたりをウロウロ歩き回り、私たちの事を研究しています。

これが新約聖書の原語であるギリシャ語の概念で、サタンは私たちを研究し、戦略を練るのです。

「彼らは、この領域では隙だらけだ。」

「彼は疲れていると戦わないということが分かった！ その時まで待てよう。」

「どうすれば良いか分かったぞ。彼が落胆するまで待とう。そして殺しにかかろう。」

それが、サタンのすることなのです。

さて、大変興味深いことに、イエスがサタンに抵抗した時、自分の神性で抵抗したではありませんでした。

神として、完全な神として抵抗したのではなく、完全な人間として、神性ではなく人性で抵抗しました。

なぜ？

イエスがその神性で抵抗したなら、「彼は人間の姿をした神なんだから、抵抗できるに決まってる。」と思うでしょ
う。しかし違いました。

イエスは人間として、それをしたのです。

私たちのために模範となって。私たちも立ち、サタンに対抗するために。

実際、唯一の攻撃用武具は“御霊の与える剣”で、その他の武具は全て、私たちを守る防御用です。

御霊の与える剣とは、“神の御言葉”

これこそイエス自身が用いたもので、具体的に申命記の御言葉を引用しています。

イエスは御霊の与える剣である神の御言葉でサタンに対抗したので、サタンは逃げ去りました。

ところで、注目してきた武具について、各武具が表すものの詳細については主の導きで次回学びます。

前回、今週にと言ったのは分かっていますが、主が次回に導いておられるので。

私たちは救い主の模範を見習う必要があるのですが、問題は、サタンは非常に巧妙に、戦略的に私たちを非難するこ
と。

ここでまた、ローマ人への手紙 8 章に戻しましょう。

サタンは、過去にあなたが失敗したことを利用して非難し、再び倒れるように試みます。

これを説明したいので、辛抱して聞いて下さい。

私が今日、時間をかけてここまでお話したのは、全てがこのためです。

このために今日は、急いで武具の箇所を教えたくなかったのです。

サタンはあなたが立つことなく、抵抗せず、自分の策略にはまって餌食になるよう仕向けることに成功しています。

非難をし、非常に巧妙なので、あなたの生来の罪の性質はそれを信じ込んでしまうのです。

つまり、サタンがやって来て暗示する。

「ふん。おまえは立てないさ。どうせ、また失敗するって、分かっているだろう？」

「神に赦しを請うの？ また!？ 神が赦し続けてくれると思っているの？」

こういう非難をして、あなたの人生の中に巧みに、罪の意識と非難の基盤を築く作業を始める。

そうすると、あなたは勝利ではなく、敗北の道が無駄に歩んでしまいます。

率直に言いますが、これを公にすることで、皆さんが不快な気持ちにならないように願います。

これは、長年、クリスチャンとして私が経験していたことです。

クリスチャンになりたての頃から、サタンの非難の重圧に押し潰されながら暮らしていた私は、全く敗北していました。サタンは四六時中そこにいたのです。

「またやってしまったんだね。もう二度としないと神に言ったのではなかったのかい？」

「ああ…、そうなんだ…」

ところで、私たちはこのことをきっぱりと解決できますか？ 願わくば、そうであってほしいけど。

「本当に赦してください。もう二度としません。」と神に言う時、神が「二度としない？ じゃあ赦してやろう。しかし、またするなら、もういい！ 終わりだ！」と。そう思いますか？

バカバカしく聞こえますが、まさしくこれが、私たちの人生に於いてサタンがやっていることなのです。

そして私はクリスチャンとして、クリスチャン生活の中で、ものすごく長い間これを経験していました。

サタンが私を非難する。

私は「そうなんだ。その通りなんだ…」

サタンが「こんな事をするなんて！」 私は「本当に。ああ、どうしよう！！」

サタンが「おまえはまたやってしまったのだな。」

「またやってしまった。またしても… もう二度としないと言ったのに、どうしよう、またやってしまった。ああ、どうしよう…」

その状況から離れる方がいい。そうでしょうか？

ローマ人への手紙、先程は8章でしたが、少し戻って6章14節を見てください。

罪があなたがたを支配することはないからです。“支配する”がキーワード。

理由は、**あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にあるのです。(ローマ6:14)**

これまた馬鹿げているように聞こえるでしょうが、私には“馬鹿げたように言う”賜物がありまして。

サタンは絶対に御言葉を隠したいのですが、このローマ書6:14は、隠したいものリストのトップです。

「ちょっと待て。人間を非難し罪悪感を抱かせる私の基盤を壊すな！」という感じですね。

ところで、ローマ人への手紙8章1節は、サタンが聖書から隠したい、取り去りたいもう一つの節です。

こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。(ローマ8:1)

この意味が分かりますか？

主よ、私がこれをできるだけ簡単に説明できるように助けて下さい。

どうか聞いて下さい。ベストを尽くして説明します。このためにメモに頼るのです。

サタンは、あなたを非難し続けることができるから、あなたを律法の下に留まらせたい。

しかし、あなたは律法の下にないから、罪から来る罪悪感と非難は、もはやあなたを支配し縛ることはない。

あなたは律法の下ではなく、恵みの下にいるのだから。

サタンの真実を絶対に知って下さい。

「神は私たちの人生に計画を持っている」と、いつも私たちは言っていますね。

サタンも、私たちの人生に計画があるのを知っていましたか？

この順番がまた面白いのですが、サタンは“盗み”“殺し”“滅ぼす”ために来るとイエスは言いました。

それが、サタンの計画なのです。

ところでそれは、エレミヤ書29章11節ではありませんよ。

わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている—主のことば—。

それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

(エレミヤ 29:11)

私たちはみんな、その節が大好き。

でも、サタンにも同じような節があります。

「私には、おまえのために立てている計画がある。それはおまえ盗み、殺し、滅ぼす計画だ。私はおまえを憎んでいる！」

いいですか？ それがサタンの計画です。

では、サタンはその計画をどのように実行するのかというと、自らの手で私たちを落とせると思っているのが分かります。

言わせて頂いたら、私たちが陥り易いからです。

「良い子にしていれば、良いことがある。」 「私が悪い子だから…」

誰もがそういう風に教えられ育っているので、この観念に影響され易い。そうでしょ？

間違いなく学校では…あ、どうか誤解しないで下さい。

しかし、全ての教育制度は、これを前提に構築されています。違いますか？

私は何も軽蔑しているつもりはなく、ただ、この事に働いている力を説明しようとしているのです。

学校で 90 点や 100 点を取れば、成績表に A とか B がつきます。

もし、あなたが私みたいだったら、一度も A や B を見た事はないでしょう。

もっと低い他のアルファベットが並んでいたはずですよ。

とにかく、悪い成績を取って家に帰ると、特に、父親がウチみたいに教師だったら… 私は教師の息子でした。

これ以上は話しませんが、とにかく、私が悪い成績を取って家に帰ると父親がものすごく怒る。

そこで、私は自分の父親を見て天のお父様を思い、考え始めます。

悪い成績を取って地上の父親が激怒するのなら、良くないことをしたら天のお父様も激怒すると。

考えてみて下さい。「ああ！ またやってしまった…」

するとサタンはそこにいて、こんな風に言います。

「まったく、どうしようもないヤツだな。もし俺がおまえなら、とりあえず、神とは暫く距離を置くな。」

「二度と折ったり、赦しを願ったりするなよ。神が、また、おまえを赦してくれると思うのか？」

また、大変な一週間を過ごしていて、「わざわざ教会に行きたくないなあ。」

すると、「教会の人たちが、おまえがしたことを知ったら困るんじゃないのか？」

私がこう言った後に、隣にいる人を見ないように。

木曜日の夜、これについて話しましたね。

詩篇 42 篇と 43 篇の著者はダビデだと私は思っていますが、その中で彼は、エルサレムで幕屋に神の民が集まっていた時のことを思い出しています。

ここでダビデは、息子アブサロムから逃げていた時のことを思い出していたのだと言う人もいます。

その時彼は、神の民との交わりと、彼らと共に礼拝することを恋しく思っていました。

ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず (ヘブル 10:25)

ちょっとお付き合いください。私の腕時計を使って説明しますから。

時計といえば、面白い話を思い出します。

牧師が時計を外した時、男の子が「パパ、牧師さんが時計を外して講壇に置くのはどういう意味？」と父親に聞きました。父親の答えは「全く何の意味もないんだよ。」

それはさておき、私が時計を外したのは説明するためです。

ところで、これはTIMEXの時計で39.99ドルだったと思いますが、これをひと舐めすれば、続けてチクタク動きますよ。

若い人たちには意味が分からないでしょうね。大丈夫です。

この時計は組み立てられています。

どういうことかと言うと、この時計の全部品、例えばバネ、ダイヤルなど全ての複雑な部品があっても、それらをただ集めただけでは機能を果たしません。

しかし、これらを組み立てたら機能を果たします。

私が何を言いたいのか分かりますね？

私たちが神の民として共に建て上げられる時、それぞれが異なる体の各部分として働き始めるのです。

断言しますが、教会でミニストリーの働きというのは、講壇から皆さんの席の間（壇上から席）だけではありません。こちら側のあなたとそちら側のあなたの間（席の右端から左端）にもあるのです。

共に交わり、共に祈り、共にパンを裂く。

これ以上に、私の心が祝福されることなど他に何もありません。

彼らはずっと、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。（使徒 2:42）

これが、初期教会がしていたことで、キリストの体、信者の集まりには必要不可欠なのです。

これは健全なこと、健全な体の機能です。

サタンがなぜ、あなたを教会に行かせたくないか分かりますね。

木曜日の夜の聖書の学びは7時からここですが、週半ばの木曜日の夕方5時頃になると、疲れて眠くなるし、週の疲れがどっと襲って来て疲労困憊で、「大変な日だったから、本当に教会に行く気にはなれないよ。」

それはそうですよ。これが理由です。

敵サタンはあなたを教会に、神の人々が集まる交わりに行かせたくないのだから。

しかし、そこであなたが立ち上がり、敵に抵抗して教会へ行くと、まるで今日の讚美の最初の曲のようで、これももう、素晴らしい！

何よりもまず初めに、あなたに襲いかかっていた眠気や疲れが吹き飛ばす。

なぜですか？ サタンが去るから。サタンは逃げて、企みは失敗した。残念でした！

あなたが御言葉を読む時はウトウトして舟を漕いで、こんな感じでしょう。

「…わたし…は…あなた…計画を…持っている…」

その原因は何だと思いませんか？

祈りについても、「おまえは祈ろうとするのか？」

サタンはクリスチャンが祈らないように、御言葉から離れるように、共に交わらないように、あらゆることをします。

ここでまとめます。

サタンはなぜ、あなたを非難し続けるのか。

あなたを非難し続けることに成功するなら、あなたを罪に浸らせ続けること、それも成功するからです。

それだけではなく、あなたを神と神の素晴らしい恵みから引き離す、という計画も達成する。

それで、神が計画している恵みを受ける権利をあなたから奪おうと、手段を選ばず、あらゆることを繰り返して行くのです。サタンは、あなたには神の恵みを受ける権利があることを知っています。

そしてまた、あなたがそれを知っているということも知っているのです、あなたが最後にそれを受け取ることを邪魔するのです。

では、サタンはどうするのかというと、あなたを非難する。

私の書棚にある本を紹介して、締めくくりたいと思います。

それは貴重な古典の名作で、長年に渡り、私は本当に助けられました。

著者は Roy Hession/ロイ ヘッション、題名は「Forgotten Factors/忘れられた要因」

私が大絶賛する「Galvary Road/カルバリー ロード」の著者です。まだお読みでない方は是非どうぞ。

私にとって、彼の説明はとても分かり易くて、サタンの非難の下で生きることが、どれほど私たちを支配し、縛り、更なる罪に陥れるかを書いています。

「絶望の下にいと、私たちは意欲を失い、更なる罪に陥っていく。」

霊の状態がすっかり死んだようになり、不満でいっぱいになると、更に罪を重ねたところで、その状況がもっと悪化するとは感じなくなる。「だから、罪を犯そうじゃないか。」

「この状況の中で、一般的に私達が望むのは、恥ずべき罪を隠そうとすることである。」

「しかし」注意して聞いて下さい。

「私たちが罪を隠し続ける限り、私たちは非難され続け、更にどんどん支配されていくのだ。」

これで全て分かりますね。

「私たちを刺激して罪を犯させようとするサタンの本当の目的は、私たちに何か論理に反することをさせることだけでなく、私たちがそれに陥った時に、私たちに告発する機会を得ることだ。」

黙示録 12章でサタンは「兄弟たちを告発する者」と呼ばれており、その条件下で、私たちは無力にされる。」

負けてしまい、勝利者ではなくなり、ただ無力になるのです。

「汚い行為をしたクリスチャンは、あくる日、自分自身をまったく犬のように感じて、神を見たくなくなり、クリスチャン仲間の目を見ることができなくなる。」

霊的なものを受け取るよりも、むしろ逃げ出すか、隠れようとするだろう。

これが、サタンにそそのかされてクリスチャンが罪に陥った時の結果であり、サタンの目的なのだ。」

再度、率直に言わせて頂き、これをもって終わりにしたいと思います。

私が罪を犯したら主の下へ行って、自分の罪を告白します。

主は忠実で正しい方で、私の罪を赦して下さい、私を全ての不義から洗い清めて下さいます。瞬時に。

神は、それについて考えもしません。

「それはどうかな。JD、頼むよ。おまえは牧師なんだ。ちょっと2-3日考えさせてくれ。」とか言ったりしませんよ。

言わせてもらうなら、それは冒涇です。

どうして冒涇と言うに至ったかと言うと、後で預言アップデートでも見て行きますが、イエスは十字架で完全に御業を終えたのでしょうか？

イエスは「完了した。」と言ったのでしょうか？

イエスは「完了はした…けど、後で分かるよ。」とは言いませんでしたよ。

「とりあえず、何年か祈りなさい。これに関しては、まだ判決は出てないんだし。」

「これはかなり酷いよ。信じられない。あなたがあんな事を言うなんて。」

もしくは、「あんな事をするなんて…」とか「あんなものを見るなんて…」

皆さん、それぞれに心当たりがありますね。でも、違いますよ。

恵みが待ち構える場所に行くのを遅らせれば遅らせるほど、その間、サタンがあなたの人生を欲しいままにするための無記名小切手、記名小切手、普通小切手を無駄に渡し続けることになるのです。

サタンは大変狡猾で、あなたが完敗するまで延々と主から、主の恵みから、主の赦しから、主の憐みから引き離そうとします。

私は、子供や孫がいる皆さんに、親として質問したいと思います。

「子供の苦しみは親の苦しみ」と言う言葉がありますね。

そのことを、私自身の人生において考えていました。

私の子供たちは、私にとって素晴らしい喜びの源であり、また、大きな悲しみの源でもあります。

彼らが苦しんでいるのは大きな悲しみです。

子供たちを心から愛する親なら、彼らが苦しんでいる時には深い悲しみがあります。

子供たちが傷ついている時、皆さんも傷ついているでしょう。

それならば、神の子供であるあなたが傷ついている時、神の心はどれほど傷ついていることか。

愛に満ちた天の父が、自分の子供たちが敗北の人生を生きることを望んでいると思いますか？

神はそうではないことを保証します。

特に、神は既にあなたに勝利をもたらしているのですから、そんなことを望んでおられるはずがないのです。

敵に、あなたの人生を好き勝手させないように。あなたに対して、そうさせないように。

ここで止めるのです。今、止めるのです。

そして敵に言う。「下がれ！ おまえは敗北した敵だ！ 嘘つきだ！」

「先生、声を出してサタンに話しかけるんですか？」

ええ。先週学んだ通り、サタンは全知ではありません。

サタンは遍在できないから、もしサタンがそこに、あなたの所にいるなら…礼拝後話しましょうか？

だからそれは、実際にはサタンではなくて、手下の悪霊たちです。

どのように叱りつけるのかと言うと、声に出すことを提案します。

それが何ものであるかをはっきり告げて、大きな声で言い放つのです。

皆さんの中には、これが古びた話に思える人もいるでしょう。

でも、それに言うのです。「おまえは嘘つき！ 嘘つきだ！ ここから出ていけ！ おまえは負け犬だ！」

「ええ…でも、それは、私に恐れを与えようとしています。」違う！

「神は『恐れるな!!』と言っている。だから、『恐れろ』と言うおまえは嘘つきだ！」

「私は恐れる必要はない！ 心配しない！ ここから出ていけ！ おまえに権利はない！」

「私から離れろ！ 子供たちから離れろ！ 妻から離れろ！ 私の結婚生活から離れろ！ ここから出ていけ!!」

「この教会からも出ていくのだ!!」

あなたが好むと好まざるとにかかわらず、信仰は戦いであることを知っていましたか？

遊び場ではなく戦場。戦いであり、奮闘です。

私たちが信仰と呼ぶものは命がけの戦い！

あなたは戦いの中にいる！

もしサタンが戦いを求めているなら、私の中で戦いますよ。

なぜなら、私は戦いを受けますから！

泣き言など言いません！ 縮こまったり、ためらったりしません！ 信仰によって！

戦いたいなら、かかって来い！

もちろん分かりますよね。私は大口をたたきますよ！
 誰がそこにおられるか、分かっていますから。
 そしてこの戦いは、その方に敵対してのものだから。
 自分を、割礼を受けていないペリシテ人に対抗する少年ダビデのように感じます。
 彼は、こんな感じで豪語していました。
 でも、それは別の話。今から話をさせないで下さいよ。
 皆さんの寛容に感謝します。

では、祈りで締めくくりましょう。
 天のお父様。みことばをありがとうございます。
 主よ。真にありがとうございます。
 私たちが勝利者であることに感謝します。
 今日ここにいる、サタンが支配する非難の重圧の下にある方々のために、それも今日で終わることを祈ります。
 彼らがこの美しい教会を出て帰って行く時、頭を高く上げ、あなたの力によって勝利に歩み、立つことが出来ますように。
 イエスの御名によってお祈りします。アーメン。

.....

「今日、もし御声を聞かならば、あなたがたの心を頑なにしてはならない。」(ヘブル4:7)

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi